

NATURE

# ネイチャー



## 3 チーター

日の出前にスプリングボックを仕留めた。小さな頭やスリムな体、ストライド走法を生み出す長い脚など、走ることに特化している



### 野生のいぶき

湖国から アフリカへ

動物写真家 須藤一成



## 風景に紛れひたひたと。十数秒の攻防

チーターは地上を走る動物の中で最も足が速い。そのスピードは時速120kmにもなると言われている。走りだして数秒でこのスピードに達する、驚くべき瞬発力だ。引き締まったスリムな体は、走るために生まれて来たように見えて芸術作品のように美しい。しかし、彼らもまた生息できる場所が減少し、アフリカ全土で生息地が国立公園などの限られた地域だけに残っている絶滅危惧種だ。

この時、獲物から目を逸らすことなく、その動きに注目している。相手がチーターの方を向くとビタリと動きを止め、別の方向を向いた時に素早い動きで近づいて行く。この駆け引きの緊張感が、見ている僕にもピンピンと伝わってくる。

世界最速の走りを長くは維持できないので、この後の十数秒程度の攻防で狩りの勝敗は決まる。狩りの成功率は高くないが、カモシカの仲間や藪に好んで生息するブッシュバックを捕らえる場面に遭遇したことがある。南アフリカ、クルーガー国立公園のことだ。追いつ追われつとなつて間もなく、チーターの前脚がかかるようにブッシュバックに届いた。後ろ脚をはたかれたブッシュバックは脚をからませてスピードダウン。その一瞬を逃さず、ブッシュバックを押さえ込んで狩りは終了した。



第3水曜日に掲載予定



スプリングボックの群れ。保護色ではない上に群れているためよく目立つ。群れるメリットは、捕食者をいち早く見つけられることだ



ブッシュに紛れるように座り、獲物が現れるのを待つ

すどう・かずなり 1961年、京都府夜久野町(現福知山市)生まれ。イヌワシに魅せられ、滋賀を拠点に日本やアフリカで野生動物の撮影に取り組む。米原市在住。写真集「Golden Eagleイヌワシ」(平凡社)、DVD「ブラックイーグル」「ツキノワグマ」など。